

編集 後記

この号がお手元に届く頃は、科研費申請書に追われて皆様大わらわと言うところでしょうか。それとも、申請書を提出し終わって、来年こそ（来年も？）〇百万円はくるだろうなどと皮算用している頃でしょうか。本号には、来年の生理学会の参加申込書がついておりますので、大切にお取り扱ってください。

さて本号のVisionには、生理学研究所名誉教授であられる山岸先生が寄稿してくださいました。生理学研究所設立当時のお話からは、生理学にかける情熱がひしひしと伝わってきます。私は生理学者として、今の時代に何が出来るのかしらと、ふと考えてしまいました。生理学雑誌編集委員の一員として、少しでも生理学会員相互の連携を深めるお手伝いが出来ればと思います。

ところで、奥村先生がAfternoon Teaのなかで、鳥の歌行動の研究を例に挙げて至近要因と究極要因の研究とは何かを説明しておられます。電気生

理学的研究アプローチはいわゆる至近要因の研究であるとのこと。私は、恩師に「生理学ではWhyを考えてはいけない。生理学とは、How dose it work? What is it doing? を追求し明らかにするものである。」と言われ、未熟な私は「Whyを考える方がよっぽどおもしろいのに」と思ったことを思い出しました。教育とは恐ろしいもので、気がつけば今ではすっかりHowとWhatを追求しており、恩師と同じようなことを言っています。

しかし今でも、「なぜそうなっているのか」という究極要因を研究することにあこがれを持っています。今の私の研究は確かに「脳の神経回路どうなっているのか。」ですが、いつかそれを超えて、「なぜ神経回路はこのようになっているのか。」という問いに対する答えを生理学者として出してみたいと思います。

(関野祐子)

*編集執行委員

編集委員

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| *岡田 泰伸 (一般生理) [編集・広報幹事] | 佐々木和彦 (神経生理) [東北] |
| 赤須 崇 (神経生理) [九州] | *定藤 規弘 (心理生理) |
| *入来 篤史 (感覚, 運動, 高次中枢) | *渋谷まさと (呼吸・循環) |
| *河西 春郎 (神経・分泌生理) | 菅屋 潤壹 (栄養・代謝・体温) [中部] |
| 川上 順子 (感覚) | 関野 祐子 (神経化学) |
| 北澤 茂 (運動, 認知) | 高井 章 (平滑筋, 自律神経) [北海道] |
| *久保 義弘 (細胞分子生理) | 辻岡 克彦 (循環) [中・四国] |
| 窪田 隆裕 (腎・体液) [近畿] | 美津島 大 (内分泌) [関東] |
| 小泉 周 (感覚) | *村上 政隆 (膜輸送) |
| 小西 真人 (筋) [東京] | 吉岡 利忠 (体力) |
| *小山 なつ (感覚, 神経生理) [HP担当] | |

日本生理学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-10 布施ビル
TEL：03-3815-1624 FAX：03-3815-1603 (勤務時間10：30～18：30)
E-mail：psj@qa2.so-net.ne.jp
URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj/